

2019年 結核登録者情報調査年報集計結果について

当該年報は、2019年1月1日から同年12月31日の間に、新たに登録された結核患者及び潜在性結核感染症(LTBI)の者と、2019年12月31日現在に登録されているすべての登録者に関する状況について、感染症サーベイランスシステム(NESID)上の結核登録者情報システムに全国の保健所から入力されたものを、「結核登録者情報調査年報」として取りまとめたものである。

～表ごとの解説～

【表1 諸外国と日本の結核罹患率について】

2019年の結核罹患率（人口10万対）は11.5であり、前年と比べ0.8ポイント減少している。

日本の結核罹患率は近隣アジア諸国に比べ低い水準にあり、欧米先進国の水準に年々近づいている。

【表2 結核罹患率の都道府県別おもな順位について】

都道府県別の結核罹患率（人口10万対）は、大阪府、岐阜県、兵庫県、奈良県、京都府の順に高く、岩手県、秋田県、福島県、宮城県、北海道の順に低くなっている。大阪府の結核罹患率は18.4であり、同府の中でも大阪市の罹患率が最も高く、25.6となっている。（表2、表7-2）

【表3 結核の死亡数及び死亡率の年次推移について】

2019年の結核による死亡数は2,088人（概数）で、前年の2,204人に比べ116人減少している。死亡率（人口10万対）も1.8から1.7に減少し、死因順位も31位と前年と比べて低下している。

【表4 新登録結核患者数及び罹患率の年次推移について】

(1) 2019年に、新たに結核患者として登録された者の数（新登録結核患者数）は14,460人で、前年より1,130人(7.2%)減少している。減少率を見ると、2017年から2018年にかけての減少率は7.1%（16,789人→15,590人）であることから、減少幅は0.1ポイント大きくなっている。（表4-1）

(2) 2019年の罹患率（人口10万対）は11.5であり、前年の12.3より0.8(6.5%)減少している。減少率を見ると、2017年から2018年に

かけての減少率は7.5%であることから、減少幅は1.0ポイント小さくなっている。(表4-1、図1)

(3) 喀痰塗抹陽性肺結核の患者数は5,231人で、前年より550人(9.5%)減少している。(表4-2)

(4) 喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率(人口10万対)は4.1であり、前年の4.6より0.5減少している。喀痰塗抹陽性肺結核の患者が全体に占める割合は36.2%で、前年と比べて0.9ポイント減少している。(表4-2)

【表5 年次別・年齢階級別 新登録結核患者数および潜在性結核感染症新登録者数について】

(1) 年齢階級別の新登録結核患者数では、前年減少となった90歳以上では再び161人(8.9%)の増加となっている。0~14歳の小児結核は38人で前年から13人(25.5%)の減少(ただし、5~9歳で3人の増加)となっている。その他の年齢階級では、30~39歳で118人(13.3%)、60~69歳で232人(13.6%)の減少となっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80~89歳が28.1%と最も多くなっている。90歳以上でも割合は13.6%となっており増加傾向は続いている。(表5-1)

(2) 年齢階級別の喀痰塗抹陽性肺結核新登録患者数は、0~14歳の小児結核での発生は0となっている。15歳以上の年齢階級では、90歳以上で78人(9.8%)の増加となっている。その他の年齢階級での増加はなく、30~39歳で60人(23.2%)、60~69歳で168人(24.2%)が大きな減少となっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80~89歳が30.5%と最も大きくなっている。

(表5-2)

(3) 2019年に登録された小児結核患者(15歳未満)のうち、重症結核例である粟粒結核及び結核性髄膜炎患者数は、粟粒結核が3人で、患者の年齢は0歳が2人、12歳が1人となっている。結核性髄膜炎患者の発生は0となっている。(表5-3)

(4) 2019年に新たに登録された潜在性結核感染症の者の数は7,684人で、前年より270人の増加となっている。年齢階級別では、39歳以下と60~69歳で減少となっている。70歳以上の高齢層で増加が続いており、70~79歳では164人(14.5%)、80歳以上では168人

(26.3%)の増加となっている。(表5-4)

- (5) 新登録結核患者数に対する潜在性結核感染症新登録者数の比は、14歳以下の年齢階級では4.8以上となっており、潜在性結核感染症新登録患者数の方が多くなっている。特に0~4歳は22.8となっている。また、40~49歳と50~59歳で潜在性結核感染症新登録患者数の方が多くなっている。

(表5-5)

- (6) 職業別では、2019年の潜在性結核感染症新登録者数における医療職(看護師・保健師、医師、その他の医療職)の数の割合は21.8%となっている。一方、無職・その他の割合が、前年の30.6%から33.2%に増加となっている。乳幼児、保育園・幼稚園児、小中学生、高校生以上の生徒学生の割合は14.8%から12.0%に減少となっている。(表5-6)

- (7) 外国生まれ新登録結核患者数は、前年から126人減少して1,541人となっている。15歳以上で新登録患者数が最も減少したのは30~39歳であり、前年から61人減少し、283人となっている。新登録結核患者における外国生まれの者の割合は前年と同じ10.7%となっている。20~29歳では外国生まれ新登録結核患者数は前年に比べて45人の減少で851人となっているが、新登録結核患者における外国生まれの者の割合は73.1%と前年から2.7ポイントの増加となっている。(表5-7)

- (8) 外国生まれ新登録結核患者のうち、入国5年以内の者は、前年の882人から46人減少し836人となっている。特に20~29歳の年齢階級では、前年から29人減少し、588人となっている。

(表5-8)

- (9) 日本生まれ新登録結核患者数は、前年の13,570人から1,003人減少して12,567人となっている。年齢階級別では80~89歳の患者数が最も多く日本生まれ新登録結核患者の31.3%となっている。90歳以上を除く年齢階級では、新登録結核患者数は減少となっており、15歳以上での減少割合は20~29歳が60人(16.3%)で最も大きくなっている。90歳以上は147人増加して1,880となっている。

(表5-9)

【表6 年次別・年齢階級別 結核罹患率について】

- (1) 年齢階級別の結核罹患率は、20~29歳で9.2と高くなっている

。60～69歳の罹患率は9.1で全年齢の罹患率より低いが、70～79歳で17.6、80～89歳で45.4、90歳以上では85.2となっている。全体としては年齢階級別罹患率の年次推移は減少傾向にあるが、90歳以上の罹患率は85.2と前年から2.4の増加となっている。（表6-1）

(2) 菌喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率も、同様に、高齢層ほど高くなっている。70歳代までは10未満だが、80～89歳で17.8、90歳以上では37.7となっている。（表6-2）

(3) 新登録結核患者のうち、日本生まれの患者の結核罹患率は、前年から0.7ポイント減少の10.2となっている。外国生まれ結核患者の影響が除かれた20～29歳の罹患率は2.6、30～39歳で3.4となっており、全体の罹患率からは低くなっている。（表6-3）

【表7 新登録結核患者数及び結核罹患率 都道府県別・年次推移について】

(1) 都道府県別の登録結核患者数が最も多いのは東京都の1,810人で、次いで大阪府の1,619人となっている。（表7-1）

(2) 都道府県別の結核罹患率で、結核低まん延の水準である罹患率10を下回った都道府県の数、前年の17から増加して22となっている。最も低い岩手県の結核罹患率は6.8となっている。（表7-2）

【表8 年末時結核登録者数及び有病率の年次推移について】

2019年末現在の結核登録者数は34,523人と、前年の37,134人より2,611人減少している。そのうち、活動性全結核の患者数は9,695人と、前年より753人減少している。また、2019年末の結核有病率は、前年の8.3から0.6減少し、7.7となっている。（表8）

【表9～表14 新登録結核患者の疫学的特徴について】

<再治療者>

2019年新登録結核患者のうちの再治療者は、667人となっている。このうち、前回治療年が2000年以降の者は438人で、さらに2010年以降の者が371人と再治療者のうち55.6%となっている。(表9)

<発見の遅れ>

- (ア) 2019年の新登録肺結核患者のうち有症状の者の中で、受診が遅れた(症状発現から受診までの期間が2か月以上)患者の割合は、20.4%となり、前年から0.2ポイントの減少となったが、2002年以降では依然として高い割合となっている。このうち30~59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、受診が遅れた患者の割合は34.4%となっている。(表10-1)
- (イ) 診断が遅れた(受診から結核の診断までの期間が1か月以上)患者の割合は、21.9%となっている。(表10-2)
- (ウ) 発見が遅れた(症状発現から結核の診断までの期間が3か月以上)患者の割合は、21.7%となっている。(表10-3)

<薬剤耐性>

2019年の新登録肺結核培養陽性結核患者8,110人のうち、薬剤感受性検査結果が判明した者(INH、RFP両剤感受性検査結果判明者)は6,658人で、割合は82.1%となり、前年の84.0%から1.9ポイント減少となっている。このうち、多剤耐性肺結核患者数(INH、RFP両剤耐性の者)は44人で、前年より11人減少となっている。新登録肺結核培養陽性結核患者の多剤耐性結核割合は0.5%で前年の0.6%から0.1ポイント減少となっている。また、薬剤感受性検査結果が判明した者のうち、主要4剤(HRSE)全ての薬剤に対し感受性のある患者の割合は88.6%となっている。(表11)

<糖尿病、HIV合併>

2019年の新登録結核患者のうち、糖尿病合併患者は2,105人で、新登録結核患者の14.6%となっている。また、HIV検査を実施した患者は1,004人で、新登録結核患者の6.9%にあたり、このうちHIV陽性は29人で、新登録結核患者の0.2%となっている。(表12)

<医療従事者>

- (ア) 2019年の新登録結核患者のうち、看護師・保健師からの登録患者は152人で、前年の168人から16人の減少となっている。新登録結核患者のうちの割合は1.1%と前年と同割合となっている

。年齢階級別では、40～49歳が最も多いが前年の58人から13人減少して45人、同年齢階級新登録結核患者の4.6%となっている。（表13-1）

(イ) 2019年の新登録結核患者のうち、医師の登録患者は39人で、前年より5人増加となっている。新登録結核患者中の割合は0.3%となっている。30歳から69歳の年齢階級別新登録結核患者中割合は0.5～0.7%となっている。（表13-2）

(ウ) 2019年の新登録結核患者のうち、理学療法士、作業療法士、検査技師、放射線技師など、看護師・保健師・医師以外の者で医療機関に勤務する者の登録患者数は221人で昨年の225人から4人の減少となり、新登録結核患者のうちの割合は1.5%となっている。30歳から69歳での年齢階級別では、40～49歳における割合が最も大きく、同年齢階級新登録結核患者の6.3%となっている。（表13-3）

<無職臨時日雇など>

2019年の新登録結核患者のうち、登録時の年齢が20～59歳であり、登録時の職業が無職臨時日雇等であった者は762人で、前年の869人から107人減少している。新登録結核患者のうちの割合も19.2%で前年の20.0%から0.8ポイントの減少となっている。年齢階級別での患者数は、高齢ほど多くなっており、55～59歳では、同年齢階級の32.9%とおよそ3人に1人となっている。

また、男性の患者に占める無職臨時日雇等の者の割合は55～59歳が最も割合が大きく31.6%となっているが、前年から2.5ポイント減少となっている。（表14-1、14-2）

<治療成績>

2018年の新登録結核患者の2019年末での治療成績は、治療成功が65.6%、死亡22.4%、失敗0.1%、脱落・中断1.6%、転出2.4%、治療中7.5%、不明0.3%となっている。60歳以上から年齢階級の上昇にともなって死亡割合が増加し、60～69歳で11.9%、70～79歳で20.2%、80～89歳で35.7%、90歳以上で53.9%となっている。死亡の影響が少ない59歳以下の年齢階級の治療成功割合は75.1%～87.1%となっている。脱落・中断は50～59歳で最も高く2.3%となっている。（表15-1）

2018年の新登録再治療結核患者の2019年末での治療成績は、治療成功が64.6%、死亡18.9%、失敗0.1%、脱落・中断2.6%、転出2.4%、治療中10.2%、不明1.1%となっており、死亡の割合は全体よりも低くなっているものの脱落・中断が多くなっている。（表15-2）

2018年の潜在性結核感染症新登録者のうち治療を開始した者の2019

年末での治療完了率は83.9%となっている。脱落・中断は7.3%となっているが、中高年齢階級では高く60～69歳では9.3%となっている。（表15－3）

2017年の新登録結核患者で多剤耐性結核患者の2019年末での治療成績は、対象63人のうち治療成功52.4%、死亡14.3%、失敗0.0%、脱落・中断1.6%、転出23.8%、治療中7.9%、不明0.0%となっている。

（表15－4）

表 1. 諸外国と日本の結核罹患率

国名	罹患率	年次
米 国	3	2018
オランダ	5.3	2018
デンマーク	5.4	2018
スウェーデン	5.5	2018
カナダ	5.6	2018
オーストラリア	6.6	2018
イタリア	7	2018
ドイツ	7.3	2018
英 国	8	2018
フランス	8.9	2018
日 本	11.5	2019
シンガポール	47	2018
中国	61	2018
韓国	66	2018
タイ	153	2018
ベトナム	182	2018
インドネシア	316	2018
ミャンマー	338	2018
フィリピン	554	2018

諸外国のデータは、下記より転記

World Health Organization "Global Tuberculosis Report 2019"
 TB burden estimates, notifications and treatment outcomes

日本以外はWHOによる推定罹患率

2019年の結核罹患率（人口10万対）は11.5であり、前年と比べ0.8ポイント減少している。

日本の結核罹患率は近隣アジア諸国に比べ低い水準にあり、欧米先進国の水準に年々近づいている。

表 2. 結核罹患率の都道府県別おもな順位

	都道府県名	罹患率
罹患率の低い5都道府県	岩手	6.8
	秋田	6.8
	福島	6.9
	宮城	7.3
	北海道	7.4
罹患率の高い5都道府県	大阪	18.4
	岐阜	14.6
	兵庫	14.0
	奈良	14.0
	京都	13.7

同率の場合は小数点2位以下で順位を決定

都道府県別の結核罹患率（人口10万対）は、大阪府、岐阜県、兵庫県、奈良県、京都府の順に高く、岩手県、秋田県、福島県、宮城県、北海道の順に低くなっている。大阪府の結核罹患率は18.4であり、同府の中でも大阪市の罹患率が最も高く、25.6となっている。

表3. 結核の死亡数及び死亡率の年次推移

年次	死亡順位	死亡数	死亡率
1950年	1位	121,769	146.4
1955年	5位	46,735	52.3
1960年	7位	31,959	34.2
1965年	7位	22,366	22.8
1970年	8位	15,899	15.4
1975年	10位	10,567	9.5
1980年	13位	6,439	5.5
1985年	16位	4,692	3.9
1990年	17位	3,664	3.0
1991年	20位	3,325	2.7
1992年	21位	3,347	2.7
1993年	21位	3,249	2.6
1994年	23位	3,094	2.5
1995年	23位	3,178	2.6
1996年	22位	2,858	2.3
1997年	22位	2,742	2.2
1998年	22位	2,795	2.2
1999年	21位	2,935	2.3
2000年	24位	2,656	2.1
2001年	25位	2,491	2.0
2002年	25位	2,317	1.8
2003年	25位	2,337	1.9
2004年	25位	2,330	1.8
2005年	25位	2,296	1.8
2006年	26位	2,269	1.8
2007年	27位	2,194	1.7
2008年	25位	2,220	1.8
2009年	24位	2,159	1.7
2010年	26位	2,129	1.7
2011年	25位	2,166	1.7
2012年	26位	2,110	1.7
2013年	26位	2,087	1.7
2014年	26位	2,100	1.7
2015年	29位	1,956	1.6
2016年	28位	1,892	1.5
2017年	30位	2,306	1.9
2018年	30位	2,204	1.8
2019年	31位	2,088	1.7

(注) 死亡率は人口10万対
 人口動態統計より。2019年は概数。
 2017年より死因統計に使用する分類を変更したことに伴い、死因を選択する統計上のルールも変更された。死因別死亡数の一部にみられる数値の大幅な変化には、これらの影響による変動が含まれている(人口動態統計月報年計(概数)の概況より)。

2019年の結核による死亡数は2,088人(概数)で、前年の2,204人に比べ116人減少している。死亡率(人口10万対)も1.8から1.7に減少し、死因順位も31位と前年と比べて低下している。

表4-1. 新登録結核患者数及び罹患率の年次推移

区 分	全結核（新分類）				全結核（旧分類）	
	実数／前年比		罹患率(人口10万対) ／前年比		罹患率(人口10万対) ／前年比	
1992年					48,956	39.3
1993年					47,437	△1.3
1994年					44,590	△2.3
1995年					43,078	△1.4
1996年					42,472	△0.6
1997年					42,715	0.2
1998年	41,033		32.4		44,016	0.9
1999年	43,818	2,785	34.6	2.2		
2000年	39,384	△4,434	31.0	△3.6		
2001年	35,489	△3,895	27.9	△3.1		
2002年	32,828	△2,661	25.8	△2.1		
2003年	31,638	△1,190	24.8	△1.0		
2004年	29,736	△1,902	23.3	△1.5		
2005年	28,319	△1,417	22.2	△1.1		
2006年	26,384	△1,935	20.6	△1.6		
2007年	25,311	△1,073	19.8	△0.8		
2008年	24,760	△551	19.4	△0.4		
2009年	24,170	△590	19.0	△0.4		
2010年	23,261	△909	18.2	△0.8		
2011年	22,681	△580	17.7	△0.5		
2012年	21,283	△1,398	16.7	△1.0		
2013年	20,495	△788	16.1	△0.6		
2014年	19,615	△880	15.4	△0.7		
2015年	18,280	△1,335	14.4	△1.0		
2016年	17,625	△655	13.9	△0.5		
2017年	16,789	△836	13.3	△0.6		
2018年	15,590	△1,199	12.3	△1.0		
2019年	14,460	△1,130	11.5	△0.8		

2019年に、新たに結核患者として登録された者の数（新登録結核患者数）は14,460人で、前年より1,130人(7.2%)減少している。減少率を見ると、2017年から2018年にかけての減少率は7.1%（16,789人→15,590人）であることから、減少幅は0.1ポイント大きくなっている。

2019年の罹患率（人口10万対）は11.5であり、前年の12.3より0.8(6.5%)減少している。減少率を見ると、2017年から2018年にかけての減少率は7.5%であることから、減少幅は1.0ポイント小さくなっている。

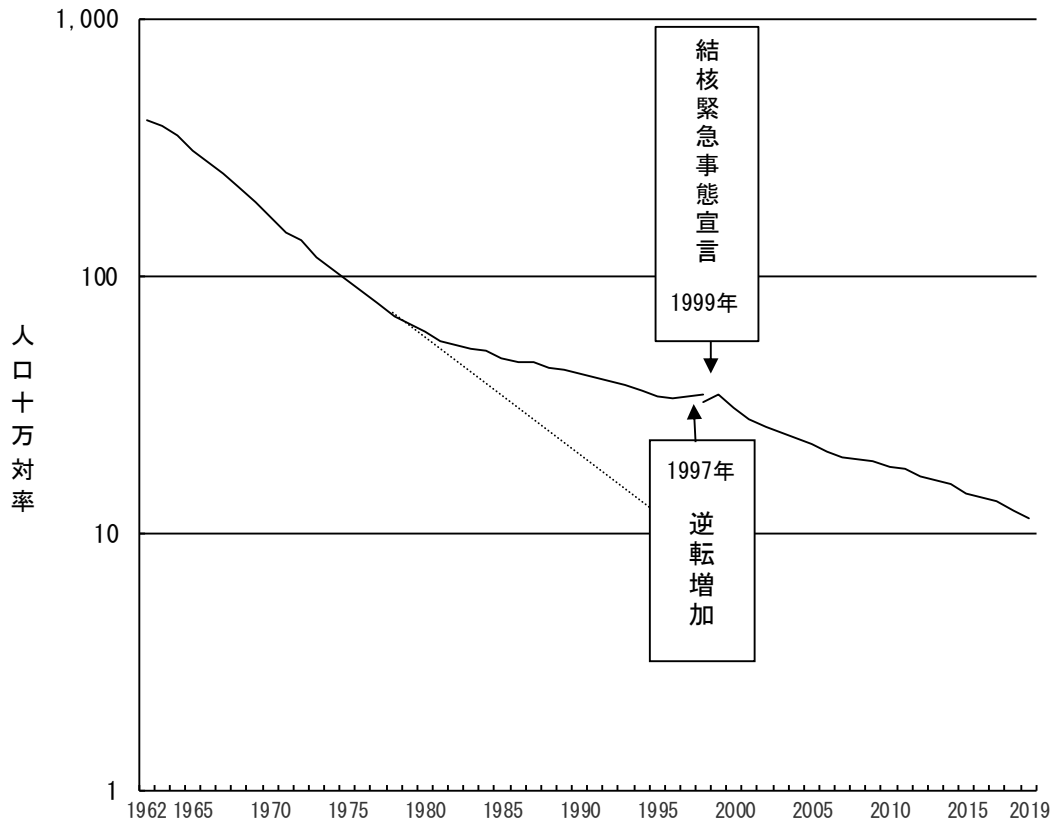
表4-2. 新登録結核患者及び罹患率の年次推移（喀痰塗抹陽性肺結核患者数、再掲）

区分	喀痰塗抹陽性肺結核(新分類) (再掲)		喀痰塗抹陽性 患者の割合 (%/全結核)	塗抹陽性肺結核(旧分類) (再掲)		塗抹陽性患者 の割合 (%/全結核)
	実数/前年比	罹患率 (人口10万対)/前年比		実数/前年比	罹患率 (人口10万対)/前年比	
1992年				15,540	12.5	31.7
1993年				15,210 △330	12.2 △0.3	32.1
1994年				14,777 △433	11.8 △0.4	33.1
1995年				15,103 326	12.0 0.2	35.1
1996年				15,035 △68	11.9 △0.1	35.4
1997年				15,967 932	12.7 0.8	37.4
1998年	13,405	10.6	32.7	16,294 327	12.9 0.2	37.0
1999年	14,482 1,077	11.4 0.8	33.1			
2000年	13,220 △1,262	10.4 △1.0	33.6			
2001年	12,656 △564	9.9 △0.5	35.7			
2002年	11,933 △723	9.4 △0.5	36.4			
2003年	11,857 △76	9.3 △0.1	37.5			
2004年	11,445 △412	9.0 △0.3	38.5			
2005年	11,318 △127	8.9 △0.1	40.0			
2006年	10,492 △826	8.2 △0.7	39.8			
2007年	10,204 △288	8.0 △0.2	40.3			
2008年	9,809 △395	7.7 △0.3	39.6			
2009年	9,675 △134	7.6 △0.1	40.0			
2010年	9,019 △656	7.0 △0.6	38.8			
2011年	8,654 △365	6.8 △0.2	38.2			
2012年	8,237 △417	6.5 △0.3	38.7			
2013年	8,119 △118	6.4 △0.1	39.6			
2014年	7,651 △468	6.0 △0.4	39.0			
2015年	7,131 △520	5.6 △0.4	39.0			
2016年	6,642 △489	5.2 △0.4	37.7			
2017年	6,359 △283	5.0 △0.2	37.9			
2018年	5,781 △578	4.6 △0.4	37.1			
2019年	5,231 △550	4.1 △0.5	36.2			

喀痰塗抹陽性肺結核の患者数は5,231人で、前年より550人（9.5%）減少している。

喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率（人口10万対）は4.1であり、前年の4.6より0.5減少している。喀痰塗抹陽性肺結核の患者が全体に占める割合は36.2%で、前年と比べて0.9ポイント減少している。

図1. 結核罹患率の推移(全結核)



1998年以降は新分類

2019年の罹患率（人口10万対）は11.5であり、前年の12.3より0.8(6.5%)減少している。減少率を見ると、2017年から2018年にかけての減少率は7.5%であることから、減少幅は1.0ポイント小さくなっている。

表5-1. 年次別・年齢階級別 新登録結核患者数

() 内は構成比

区 分	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
総 数	18,280 (100.0)	17,625 (100.0)	16,789 (100.0)	15,590 (100.0)	14,460 (100.0)
0～4歳	29 (0.2)	26 (0.1)	31 (0.2)	24 (0.2)	18 (0.1)
5～9歳	9 (0.0)	11 (0.1)	10 (0.1)	6 (0.0)	9 (0.1)
10～14歳	13 (0.1)	22 (0.1)	18 (0.1)	21 (0.1)	11 (0.1)
15～19歳	163 (0.9)	190 (1.1)	148 (0.9)	158 (1.0)	142 (1.0)
20～29歳	1,127 (6.2)	1,235 (7.0)	1,231 (7.3)	1,273 (8.2)	1,164 (8.0)
30～39歳	1,101 (6.0)	1,004 (5.7)	987 (5.9)	885 (5.7)	767 (5.3)
40～49歳	1,363 (7.5)	1,228 (7.0)	1,159 (6.9)	1,034 (6.6)	985 (6.8)
50～59歳	1,351 (7.4)	1,295 (7.3)	1,268 (7.6)	1,150 (7.4)	1,054 (7.3)
60～69歳	2,359 (12.9)	2,213 (12.6)	2,024 (12.1)	1,704 (10.9)	1,472 (10.2)
70～79歳	3,757 (20.6)	3,407 (19.3)	3,187 (19.0)	2,995 (19.2)	2,810 (19.4)
80～89歳	5,317 (29.1)	5,138 (29.2)	4,822 (28.7)	4,534 (29.1)	4,061 (28.1)
90歳以上	1,691 (9.3)	1,856 (10.5)	1,904 (11.3)	1,806 (11.6)	1,967 (13.6)

年齢階級別の新登録結核患者数では、前年減少となった90歳以上では再び161人(8.9%)の増加となっている。0～14歳の小児結核は38人で前年から13人(25.5%)の減少(ただし、5～9歳で3人の増加)となっている。その他の年齢階級では、30～39歳で118人(13.3%)、60～69歳で232人(13.6%)の減少となっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80～89歳が28.1%と最も多くなっている。90歳以上でも割合は13.6%となっており増加傾向は続いている。

表5-2. 年次別・年齢階級別 喀痰塗抹陽性肺結核新登録患者数

() 内は構成比

区 分	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
総 数	7,131 (100.0)	6,642 (100.0)	6,359 (100.0)	5,781 (100.0)	5,231 (100.0)
0～4歳	1 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)
5～9歳	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
10～14歳	1 (0.0)	3 (0.0)	2 (0.0)	3 (0.1)	0 (0.0)
15～19歳	41 (0.6)	47 (0.7)	40 (0.6)	40 (0.7)	38 (0.7)
20～29歳	292 (4.1)	282 (4.2)	289 (4.5)	296 (5.1)	296 (5.7)
30～39歳	348 (4.9)	282 (4.2)	305 (4.8)	259 (4.5)	199 (3.8)
40～49歳	454 (6.4)	386 (5.8)	371 (5.8)	321 (5.6)	308 (5.9)
50～59歳	535 (7.5)	453 (6.8)	449 (7.1)	417 (7.2)	364 (7.0)
60～69歳	935 (13.1)	852 (12.8)	804 (12.6)	693 (12.0)	525 (10.0)
70～79歳	1,408 (19.7)	1,252 (18.8)	1,238 (19.5)	1,101 (19.0)	1,035 (19.8)
80～89歳	2,347 (32.9)	2,215 (33.3)	1,995 (31.4)	1,857 (32.1)	1,595 (30.5)
90歳以上	769 (10.8)	870 (13.1)	864 (13.6)	793 (13.7)	871 (16.7)

年齢階級別の喀痰塗抹陽性肺結核新登録患者数は、0～14歳の小児結核での発生は0となっている。15歳以上の年齢階級では、90歳以上で78人(9.8%)の増加となっている。その他の年齢階級での増加はなく、30～39歳で60人(23.2%)、60～69歳で168人(24.2%)が大きな減少となっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80～89歳が30.5%と最も大きくなっている。

表5-3. 年次別・年齢階級別 新登録小児結核中の粟粒結核および結核性髄膜炎患者数

区 分	2015年			2016年			2017年			2018年			2019年		
	粟粒結核	結核性髄膜炎	(再掲) 粟粒結核、結核性髄膜炎併発	粟粒結核	結核性髄膜炎	(再掲) 粟粒結核、結核性髄膜炎併発	粟粒結核	結核性髄膜炎	(再掲) 粟粒結核、結核性髄膜炎併発	粟粒結核	結核性髄膜炎	(再掲) 粟粒結核、結核性髄膜炎併発	粟粒結核	結核性髄膜炎	(再掲) 粟粒結核、結核性髄膜炎併発
合計	1	1	0	1	2	1	3	2	1	1	1	0	3	0	0
0～4歳	0	1	0	1	2	1	3	1	1	1	1	0	2	0	0
5～9歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10～14歳	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0

合計は小児結核(0～14歳)の合計、粟粒結核と結核性髄膜炎の重複あり

令和元年患者の詳細

粟粒結核 0歳、日本出生1名、BCG接種歴なし。
 粟粒結核 0歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。
 粟粒結核 12歳、外国出生1名、BCG接種歴不明。

平成30年患者の詳細

粟粒結核 0歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。
 結核性髄膜炎 0歳、日本出生1名、BCG接種歴あり。

平成29年患者の詳細

粟粒結核、結核性髄膜炎併発 0歳、日本出生1名、BCG接種歴あり。
 粟粒結核 0歳、日本出生2名、BCG接種歴なし。
 結核性髄膜炎 14歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

平成28年患者の詳細

粟粒結核、結核性髄膜炎併発 0歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。
 結核性髄膜炎 0歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

平成27年患者の詳細

粟粒結核 12歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。
 結核性髄膜炎 0歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

2019年に登録された小児結核患者(15歳未満)のうち、重症結核例である粟粒結核及び結核性髄膜炎患者数は、粟粒結核が3人で、患者の年齢は0歳が2人、12歳が1人となっている。結核性髄膜炎患者の発生は0となっている。

表5-4. 年次別・年齢階級別 潜在性結核感染症（LTBI）新登録者数

（ ）内は構成比

区分	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
総数	6,675 (100.0)	7,477 (100.0)	7,255 (100.0)	7,414 (100.0)	7,684 (100.0)
0～4歳	420 (6.3)	419 (5.6)	439 (6.1)	425 (5.7)	411 (5.3)
5～9歳	131 (2.0)	96 (1.3)	119 (1.6)	103 (1.4)	62 (0.8)
10～14歳	110 (1.6)	83 (1.1)	73 (1.0)	69 (0.9)	53 (0.7)
15～19歳	124 (1.9)	162 (2.2)	117 (1.6)	164 (2.2)	124 (1.6)
20～29歳	746 (11.2)	896 (12.0)	799 (11.0)	958 (12.9)	867 (11.3)
30～39歳	933 (14.0)	888 (11.9)	818 (11.3)	801 (10.8)	750 (9.8)
40～49歳	1,042 (15.6)	1,148 (15.4)	1,050 (14.5)	951 (12.8)	1,025 (13.3)
50～59歳	1,063 (15.9)	1,200 (16.0)	1,050 (14.5)	1,021 (13.8)	1,145 (14.9)
60～69歳	1,020 (15.3)	1,261 (16.9)	1,190 (16.4)	1,154 (15.6)	1,147 (14.9)
70～79歳	709 (10.6)	839 (11.2)	992 (13.7)	1,129 (15.2)	1,293 (16.8)
80歳以上	377 (5.6)	485 (6.5)	608 (8.4)	639 (8.6)	807 (10.5)

2019年に新たに登録された潜在性結核感染症の者の数は7,684人で、前年より270人の増加となっている。年齢階級別では、39歳以下と60～69歳で減少となっている。70歳以上の高齢層で増加が続いており、70～79歳では164人(14.5%)、80歳以上では168人(26.3%)の増加となっている。

表5-5. 年次別・年齢階級別 新登録結核患者数に対する潜在性結核感染症（LTBI）
新登録者数の比

(比: 潜在性結核感染症新登録者数/新登録結核患者数)

区 分	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
総 数	0.4	0.4	0.4	0.5	0.5
0～4歳	14.5	16.1	14.2	17.7	22.8
5～9歳	14.6	8.7	11.9	17.2	6.9
10～14歳	8.5	3.8	4.1	3.3	4.8
15～19歳	0.8	0.9	0.8	1.0	0.9
20～29歳	0.7	0.7	0.6	0.8	0.7
30～39歳	0.8	0.9	0.8	0.9	1.0
40～49歳	0.8	0.9	0.9	0.9	1.0
50～59歳	0.8	0.9	0.8	0.9	1.1
60～69歳	0.4	0.6	0.6	0.7	0.8
70～79歳	0.2	0.2	0.3	0.4	0.5
80歳以上	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1

新登録結核患者数に対する潜在性結核感染症新登録者数の比は、14歳以下の年齢階級では4.8以上となっており、潜在性結核感染症新登録患者数の方が多くなっている。特に0～4歳は22.8となっている。また、40～49歳と50～59歳で潜在性結核感染症新登録患者数の方が多くなっている。

表5-6. 年次別・職業別 潜在性結核感染症 (LTBI) 新登録者数

() 内は構成比

区 分	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2019/2018年
総 数	6,675 (100.0)	7,477 (100.0)	7,255 (100.0)	7,414 (100.0)	7,684 (100.0)	1.0
看護師・保健師	896 (13.4)	940 (12.6)	856 (11.8)	786 (10.6)	749 (9.7)	1.0
医師	137 (2.1)	169 (2.3)	129 (1.8)	141 (1.9)	156 (2.0)	1.1
その他医療職・介護職	752 (11.3)	750 (10.0)	797 (11.0)	699 (9.4)	776 (10.1)	1.1
接客業等	218 (3.3)	206 (2.8)	148 (2.0)	175 (2.4)	180 (2.3)	1.0
教員・保育士	64 (1.0)	74 (1.0)	68 (0.9)	87 (1.2)	79 (1.0)	0.9
上記以外の常用勤労者	1,210 (18.1)	1,392 (18.6)	1,408 (19.4)	1,405 (19.0)	1,509 (19.6)	1.1
上記以外の臨時雇、日雇	223 (3.3)	359 (4.8)	271 (3.7)	267 (3.6)	255 (3.3)	1.0
上記以外の自営業・自由業	214 (3.2)	230 (3.1)	207 (2.9)	235 (3.2)	244 (3.2)	1.0
家事従事者	145 (2.2)	144 (1.9)	116 (1.6)	108 (1.5)	118 (1.5)	1.1
無職・その他	1,681 (25.2)	2,088 (27.9)	2,142 (29.5)	2,265 (30.6)	2,551 (33.2)	1.1
乳幼児	332 (5.0)	343 (4.6)	318 (4.4)	319 (4.3)	324 (4.2)	1.0
保育園・幼稚園児・小中学生	314 (4.7)	243 (3.2)	295 (4.1)	248 (3.3)	180 (2.3)	0.7
高校生以上の生徒学生等	287 (4.3)	410 (5.5)	339 (4.7)	535 (7.2)	421 (5.5)	0.8
不明	202 (3.0)	129 (1.7)	161 (2.2)	144 (1.9)	142 (1.8)	1.0

職業別では、2019年の潜在性結核感染症新登録者数における医療職（看護師・保健師、医師、その他の医療職）の数の割合は21.8%となっている。一方、無職・その他の割合が、前年の30.6%から33.2%に増加となっている。乳幼児、保育園・幼稚園児、小中学生、高校生以上の生徒学生の割合は14.8%から12.0%に減少となっている。

表5-7. 年次別・年齢階級別 外国生まれ新登録結核患者数

() 内は新登録に占める割合

区分	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
総数	1,164 (6.4)	1,338 (7.6)	1,530 (9.1)	1,667 (10.7)	1,541 (10.7)
0～4歳	3 (10.3)	2 (7.7)	1 (3.2)	3 (12.5)	2 (11.1)
5～9歳	0 (0.0)	3 (27.3)	4 (40.0)	1 (16.7)	5 (55.6)
10～14歳	6 (46.2)	7 (31.8)	6 (33.3)	8 (38.1)	3 (27.3)
15～19歳	57 (35.0)	82 (43.2)	81 (54.7)	87 (55.1)	78 (54.9)
20～29歳	565 (50.1)	712 (57.7)	774 (62.9)	896 (70.4)	851 (73.1)
30～39歳	252 (22.9)	258 (25.7)	349 (35.4)	344 (38.9)	283 (36.9)
40～49歳	134 (9.8)	139 (11.3)	143 (12.3)	151 (14.6)	147 (14.9)
50～59歳	74 (5.5)	66 (5.1)	89 (7.0)	91 (7.9)	76 (7.2)
60～69歳	27 (1.1)	33 (1.5)	48 (2.4)	35 (2.1)	41 (2.8)
70～79歳	19 (0.5)	15 (0.4)	17 (0.5)	23 (0.8)	27 (1.0)
80歳以上	27 (0.4)	21 (0.3)	18 (0.3)	28 (0.4)	28 (0.5)

外国生まれ新登録結核患者数は、前年から126人減少して1,541人となっている。15歳以上で新登録患者数が最も減少したのは30～39歳であり、前年から61人減少し、283人となっている。新登録結核患者における外国生まれの者の割合は前年と同じ10.7%となっている。20～29歳では外国生まれ新登録結核患者数は前年に比べて45人の減少で851人となっているが、新登録結核患者における外国生まれの者の割合は73.1%と前年から2.7ポイントの増加となっている。

表5-8. 年次別・年齢階級別 外国生まれ新登録結核患者数（入国5年以内、再掲）

() 内は全外国生まれ新登録患者に占める割合

区分	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
総数	505 (43.4)	608 (45.4)	738 (48.2)	882 (52.9)	836 (54.3)
0～4歳	2 (66.7)	1 (50.0)	1 (100.0)	3 (100.0)	0 (0.0)
5～9歳	0 (-)	0 (0.0)	3 (75.0)	1 (100.0)	5 (100.0)
10～14歳	3 (50.0)	5 (71.4)	2 (33.3)	4 (50.0)	1 (33.3)
15～19歳	33 (57.9)	44 (53.7)	54 (66.7)	59 (67.8)	62 (79.5)
20～29歳	351 (62.1)	432 (60.7)	491 (63.4)	617 (68.9)	588 (69.1)
30～39歳	79 (31.3)	89 (34.5)	140 (40.1)	134 (39.0)	127 (44.9)
40～49歳	17 (12.7)	20 (14.4)	28 (19.6)	35 (23.2)	32 (21.8)
50～59歳	11 (14.9)	11 (16.7)	5 (5.6)	9 (9.9)	7 (9.2)
60～69歳	1 (3.7)	2 (6.1)	12 (25.0)	10 (28.6)	8 (19.5)
70～79歳	6 (31.6)	4 (26.7)	2 (11.8)	6 (26.1)	5 (18.5)
80歳以上	2 (7.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (14.3)	1 (3.6)

外国生まれ新登録結核患者のうち、入国5年以内の者は、前年の882人から46人減少し836人となっている。特に20～29歳の年齢階級では、前年から29人減少し、588人となっている。

表5-9. 年次別・年齢階級別 日本生まれ新登録結核患者数

() 内は構成比

区 分	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
総 数	16,396 (100.0)	15,504 (100.0)	14,533 (100.0)	13,570 (100.0)	12,567 (100.0)
0～4歳	25 (0.2)	24 (0.2)	28 (0.2)	21 (0.2)	16 (0.1)
5～9歳	8 (0.0)	8 (0.1)	6 (0.0)	5 (0.0)	4 (0.0)
10～14歳	7 (0.0)	15 (0.1)	11 (0.1)	13 (0.1)	8 (0.1)
15～19歳	103 (0.6)	102 (0.7)	63 (0.4)	70 (0.5)	62 (0.5)
20～29歳	535 (3.3)	500 (3.2)	435 (3.0)	367 (2.7)	307 (2.4)
30～39歳	819 (5.0)	719 (4.6)	609 (4.2)	527 (3.9)	476 (3.8)
40～49歳	1,176 (7.2)	1,033 (6.7)	961 (6.6)	864 (6.4)	825 (6.6)
50～59歳	1,218 (7.4)	1,164 (7.5)	1,133 (7.8)	1,032 (7.6)	952 (7.6)
60～69歳	2,242 (13.7)	2,060 (13.3)	1,880 (12.9)	1,629 (12.0)	1,388 (11.0)
70～79歳	3,563 (21.7)	3,240 (20.9)	3,012 (20.7)	2,907 (21.4)	2,720 (21.6)
80～89歳	5,099 (31.1)	4,889 (31.5)	4,594 (31.6)	4,402 (32.4)	3,929 (31.3)
90歳以上	1,601 (9.8)	1,750 (11.3)	1,801 (12.4)	1,733 (12.8)	1,880 (15.0)

(注) 出生国については日本生れと外国生まれの他に出生国不明がある。

日本生まれ新登録結核患者数は、前年の13,570人から1,003人減少して12,567人となっている。年齢階級別では80～89歳の患者数が最も多く日本生まれ新登録結核患者の31.3%となっている。90歳以上を除く年齢階級では、新登録結核患者数は減少となっており、15歳以上での減少割合は20～29歳が60人(16.3%)で最も大きくなっている。90歳以上は147人増加して1,880となっている。

表6-1. 年次別・年齢階級別 結核罹患率

(人口10万対)

区 分	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
総 数	14.4	13.9	13.3	12.3	11.5
0～4歳	0.6	0.5	0.6	0.5	0.4
5～9歳	0.2	0.2	0.2	0.1	0.2
10～14歳	0.2	0.4	0.3	0.4	0.2
15～19歳	2.8	3.1	2.5	2.7	2.4
20～29歳	9.0	9.8	9.8	10.1	9.2
30～39歳	7.1	6.5	6.6	6.0	5.4
40～49歳	7.5	6.5	6.1	5.5	5.3
50～59歳	8.8	8.4	8.1	7.2	6.5
60～69歳	13.1	12.0	11.4	10.0	9.1
70～79歳	26.9	24.5	22.0	19.7	17.6
80～89歳	66.0	60.8	55.5	51.2	45.4
90歳以上	92.0	96.3	92.7	82.8	85.2

年齢階級別の結核罹患率は、20～29歳で9.2と高くなっている。60～69歳の罹患率は9.1で全年齢の罹患率より低い。70～79歳で17.6、80～89歳で45.4、90歳以上では85.2となっている。全体としては年齢階級別罹患率の年次推移は減少傾向にあるが、90歳以上の罹患率は85.2と前年から2.4の増加となっている。

表6-2. 年次別・年齢階級別 結核罹患率（喀痰塗抹陽性肺結核患者、再掲）

区 分	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
総 数	5.6	5.2	5.0	4.6	4.1
0～4歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5～9歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10～14歳	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
15～19歳	0.7	0.8	0.7	0.7	0.7
20～29歳	2.3	2.2	2.3	2.4	2.3
30～39歳	2.3	1.8	2.0	1.8	1.4
40～49歳	2.5	2.0	2.0	1.7	1.7
50～59歳	3.5	2.9	2.9	2.6	2.2
60～69歳	5.2	4.6	4.5	4.1	3.2
70～79歳	10.1	9.0	8.5	7.3	6.5
80～89歳	29.1	26.2	23.0	21.0	17.8
90歳以上	41.8	45.1	42.1	36.3	37.7

菌喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率も、同様に、高齢層ほど高くなっている。70歳代までは10未満だが、80～89歳で17.8、90歳以上では37.7となっている。

表 6-3. 年次別・年齢階級別 結核罹患率（日本生れ新登録結核患者、再掲）

区 分	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
総 数	13.1	12.4	11.7	10.9	10.2
0～4歳	0.5	0.5	0.6	0.4	0.3
5～9歳	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1
10～14歳	0.1	0.3	0.2	0.2	0.2
15～19歳	1.7	1.7	1.1	1.2	1.1
20～29歳	4.4	4.2	3.6	3.1	2.6
30～39歳	5.3	4.8	4.2	3.7	3.4
40～49歳	6.4	5.5	5.2	4.7	4.5
50～59歳	7.9	7.6	7.3	6.5	5.9
60～69歳	12.4	11.2	10.7	9.7	8.6
70～79歳	25.3	23.4	20.9	19.3	17.2
80～89歳	62.4	58.0	53.0	49.8	44.1
90歳以上	87.2	91.0	87.8	79.6	81.5

新登録結核患者のうち、日本生まれの患者の結核罹患率は、前年から0.7ポイント減少の10.2となっている。外国生まれ結核患者の影響が除かれた20～29歳の罹患率は2.6、30～39歳で3.4となっており、全体の罹患率からは低くなっている。

表7-1. 新登録結核患者数 都道府県別・年次推移

都道府県名	新登録結核患者数(人)					備考	(再掲)菌喀痰塗抹陽性肺結核患者数(人)				
	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年		2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
全国	18,280	17,625	16,789	15,590	14,460		7,131	6,642	6,359	5,781	5,231
北海道	533	518	461	451	389		216	163	170	154	129
青森	182	171	154	127	112		81	72	67	50	53
岩手	136	131	110	105	83		54	54	30	47	30
宮城	198	185	167	166	168	↑	75	87	54	63	61
秋田	87	86	80	74	66		29	43	37	31	27
山形	82	80	81	65	83	↑	27	22	35	22	36
福島	188	163	138	183	128		83	61	62	68	55
茨城	345	354	323	304	299		109	115	127	125	115
栃木	229	218	228	172	188	↑	89	88	99	58	89
群馬	192	183	184	171	156		63	68	52	47	48
埼玉	955	979	931	856	786		347	358	363	314	288
千葉	878	906	757	755	697		315	312	270	270	246
東京	2,306	2,340	2,213	1,970	1,810		877	848	807	744	624
神奈川	1,311	1,192	1,143	1,024	987		462	424	416	374	348
新潟	232	216	190	178	190	↑	100	81	72	64	50
富山	125	117	118	107	101		45	41	30	32	27
石川	149	126	138	110	100		65	41	56	32	37
福井	72	87	90	76	69		18	27	39	30	18
山梨	73	72	68	77	77		28	28	31	20	38
長野	175	165	168	186	156		82	72	72	82	66
岐阜	314	329	313	279	290	↑	128	114	114	107	102
静岡	442	425	424	393	357		173	179	148	142	124
愛知	1,199	1,270	1,074	1,126	1,024		458	478	401	399	339
三重	244	241	219	198	167		92	84	87	79	67
滋賀	157	152	166	150	149		68	55	57	49	47
京都	376	410	410	363	354		149	155	172	136	130
大阪	2,074	1,945	1,881	1,805	1,619		901	837	796	715	660
兵庫	945	844	874	827	765		388	331	313	324	285
奈良	230	191	171	156	186	↑	90	75	82	63	77
和歌山	150	131	139	132	117		55	59	58	52	50
鳥取	90	66	75	51	43		34	24	30	19	13
島根	102	87	73	78	54		38	24	31	25	20
岡山	235	208	212	187	186		99	83	88	65	67
広島	324	324	321	290	284		139	120	122	115	107
山口	187	178	171	160	154		66	45	53	52	41
徳島	106	120	118	106	96		39	44	36	38	39
香川	144	138	139	133	99		51	58	55	35	32
愛媛	167	133	147	135	112		63	44	56	46	41
高知	108	92	94	74	77	↑	36	39	38	25	27
福岡	773	720	732	594	614	↑	279	242	280	214	196
佐賀	135	106	102	80	108	↑	65	49	47	37	47
長崎	217	218	227	222	174		78	79	71	74	53
熊本	282	232	239	201	175		104	98	80	81	61
大分	199	185	147	169	151		100	88	66	81	69
宮崎	161	143	120	97	101	↑	87	66	46	46	43
鹿児島	257	245	233	236	183		99	94	76	78	59
沖縄	214	203	226	191	176		87	73	67	57	50
指定都市(再掲)											
札幌	183	160	158	155	135		67	46	47	44	44
仙台	93	87	98	75	76	↑	34	37	31	28	31
さいたま	168	182	174	162	143		65	74	71	59	47
千葉	157	158	128	121	109		63	57	57	47	44
横浜	565	538	509	441	412		210	183	168	151	148
川崎	226	249	217	196	184		64	85	92	66	59
相模原	79	57	70	60	57		25	23	28	26	23
新潟	86	79	77	72	76	↑	38	30	33	24	20
静岡	107	97	96	83	72		41	45	30	39	25
浜松	78	105	88	86	86		34	41	29	27	19
名古屋	514	494	419	437	422		197	187	145	165	159
京都	239	246	235	227	221		90	90	101	91	85
大阪	925	887	880	798	701		412	394	368	333	304
堺	185	163	138	156	154		96	69	64	67	75
神戸	328	285	302	258	262	↑	118	108	109	73	80
岡山	81	77	80	73	72		36	28	34	21	24
広島	116	109	109	108	99		55	38	40	42	36
北九州	182	173	205	136	137	↑	66	60	88	44	31
福岡	222	192	191	165	205	↑	80	72	74	65	72
熊本	125	85	82	76	73		37	29	22	32	30
東京都特別区	1,761	1,774	1,679	1,525	1,381		658	643	603	573	478

(注)備考欄において「↑」は2019年の新登録数が2018年を上回ったものを表す。

都道府県別の登録結核患者数が最も多いのは東京都の1,810人で、次いで大阪府の1,619人となっている。

表7-2. 結核罹患率 都道府県別・年次推移

都道府県名	罹患率					備考	(再掲) 菌喀痰塗抹陽性肺結核罹患率(人口10万対)				
	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年		2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
全国	14.4	13.9	13.3	12.3	11.5		5.6	5.2	5.0	4.6	4.1
北海道	9.9	9.7	8.7	8.5	7.4	○5	4.0	3.0	3.2	2.9	2.5
青森	13.9	13.2	12.0	10.1	9.0		6.2	5.6	5.2	4.0	4.3
岩手	10.6	10.3	8.8	8.5	6.8	○1	4.2	4.3	2.4	3.8	2.4
宮城	8.5	7.9	7.2	7.2	7.3	↑○4	3.2	3.7	2.3	2.7	2.6
秋田	8.5	8.5	8.0	7.5	6.8	○2	2.8	4.3	3.7	3.2	2.8
山形	7.3	7.2	7.4	6.0	7.7	↑	2.4	2.0	3.2	2.0	3.3
福島	9.8	8.6	7.3	9.8	6.9	○3	4.3	3.2	3.3	3.6	3.0
茨城	11.8	12.2	11.2	10.6	10.5		3.7	4.0	4.4	4.3	4.0
栃木	11.6	11.1	11.7	8.8	9.7	↑	4.5	4.5	5.1	3.0	4.6
群馬	9.7	9.3	9.4	8.8	8.0		3.2	3.5	2.7	2.4	2.5
埼玉	13.2	13.4	12.7	11.7	10.7		4.8	4.9	5.0	4.3	3.9
千葉	14.1	14.5	12.1	12.1	11.1		5.1	5.0	4.3	4.3	3.9
東京	17.1	17.2	16.1	14.3	13.0		6.5	6.2	5.9	5.4	4.5
神奈川	14.4	13.0	12.5	11.2	10.7		5.1	4.6	4.5	4.1	3.8
新潟	10.1	9.4	8.4	7.9	8.5	↑	4.3	3.5	3.2	2.8	2.2
富山	11.7	11.0	11.2	10.2	9.7		4.2	3.9	2.8	3.0	2.6
石川	12.9	10.9	12.0	9.6	8.8		5.6	3.6	4.9	2.8	3.3
福井	9.1	11.1	11.6	9.8	9.0		2.3	3.5	5.0	3.9	2.3
山梨	8.7	8.7	8.3	9.4	9.5	↑	3.4	3.4	3.8	2.4	4.7
長野	8.3	7.9	8.1	9.0	7.6		3.9	3.4	3.5	4.0	3.2
岐阜	15.4	16.3	15.6	14.0	14.6	↑△2	6.3	5.6	5.7	5.4	5.1
静岡	11.9	11.5	11.5	10.7	9.8		4.7	4.9	4.0	3.9	3.4
愛知	16.0	16.9	14.3	14.9	13.6		6.1	6.4	5.3	5.3	4.5
三重	13.4	13.3	12.2	11.1	9.4		5.1	4.6	4.8	4.4	3.8
滋賀	11.1	10.8	11.8	10.6	10.5		4.8	3.9	4.0	3.5	3.3
京都	14.4	15.7	15.8	14.0	13.7	△5	5.7	5.9	6.6	5.2	5.0
大阪	23.5	22.0	21.3	20.5	18.4	△1	10.2	9.5	9.0	8.1	7.5
兵庫	17.1	15.3	15.9	15.1	14.0	△3	7.0	6.0	5.7	5.9	5.2
奈良	16.8	14.1	12.7	11.7	14.0	↑△4	6.6	5.5	6.1	4.7	5.8
和歌山	15.6	13.7	14.7	14.1	12.6		5.7	6.2	6.1	5.6	5.4
鳥取	15.7	11.6	13.3	9.1	7.7		5.9	4.2	5.3	3.4	2.3
島根	14.7	12.6	10.7	11.5	8.0		5.5	3.5	4.5	3.7	3.0
岡山	12.2	10.9	11.1	9.9	9.8		5.2	4.3	4.6	3.4	3.5
広島	11.4	11.4	11.3	10.3	10.1		4.9	4.2	4.3	4.1	3.8
山口	13.3	12.8	12.4	11.7	11.3		4.7	3.2	3.8	3.8	3.0
徳島	14.0	16.0	15.9	14.4	13.2		5.2	5.9	4.8	5.2	5.4
香川	14.7	14.2	14.4	13.8	10.4		5.2	6.0	5.7	3.6	3.3
愛媛	12.1	9.7	10.8	10.0	8.4		4.5	3.2	4.1	3.4	3.1
高知	14.8	12.8	13.2	10.5	11.0	↑	4.9	5.4	5.3	3.5	3.9
福岡	15.1	14.1	14.3	11.6	12.0	↑	5.5	4.7	5.5	4.2	3.8
佐賀	16.2	12.8	12.4	9.8	13.3	↑	7.8	5.9	5.7	4.5	5.8
長崎	15.7	15.9	16.8	16.6	13.1		5.7	5.8	5.2	5.5	4.0
熊本	15.8	13.1	13.5	11.4	10.0		5.8	5.5	4.5	4.6	3.5
大分	17.1	16.0	12.8	14.8	13.3		8.6	7.6	5.7	7.1	6.1
宮崎	14.6	13.0	11.0	9.0	9.4	↑	7.9	6.0	4.2	4.3	4.0
鹿児島	15.6	15.0	14.3	14.6	11.4		6.0	5.7	4.7	4.8	3.7
沖縄	14.9	14.1	15.7	13.2	12.1		6.1	5.1	4.6	3.9	3.4
指定都市(再掲)											
札幌	9.4	8.2	8.0	7.9	6.9		3.4	2.3	2.4	2.2	2.2
仙台	8.6	8.0	9.0	6.9	7.0	↑	3.1	3.4	2.9	2.6	2.8
さいたま	13.2	14.2	13.5	12.5	10.9		5.1	5.8	5.5	4.5	3.6
千葉	16.1	16.2	13.1	12.4	11.1		6.5	5.9	5.8	4.8	4.5
横浜	15.2	14.4	13.6	11.8	11.0		5.6	4.9	4.5	4.0	3.9
川崎	15.3	16.7	14.4	12.9	12.0		4.3	5.7	6.1	4.4	3.9
相模原	11.0	7.9	9.7	8.3	7.9		3.5	3.2	3.9	3.6	3.2
新潟	10.6	9.8	9.6	9.0	9.5	↑	4.7	3.7	4.1	3.0	2.5
静岡	15.2	13.7	13.6	11.8	10.3		5.8	6.3	4.2	5.5	3.6
浜松	9.8	13.2	11.1	10.8	10.9	↑	4.3	5.1	3.6	3.4	2.4
名古屋	22.4	21.4	18.1	18.8	18.1		8.6	8.1	6.3	7.1	6.8
京都	16.2	16.7	16.0	15.5	15.1		6.1	6.1	6.9	6.2	5.8
大阪	34.4	32.8	32.4	29.3	25.6		15.3	14.6	13.6	12.2	11.1
堺	22.0	19.5	16.5	18.6	18.6		11.4	8.2	7.7	8.0	9.1
神戸	21.3	18.6	19.7	16.9	17.2	↑	7.7	7.0	7.1	4.8	5.3
岡山	11.4	10.9	11.3	10.3	10.2		5.1	4.0	4.8	3.0	3.4
広島	9.7	9.1	9.1	9.0	8.3		4.6	3.2	3.3	3.5	3.0
北九州	18.9	18.1	21.6	14.4	14.6	↑	6.9	6.3	9.3	4.7	3.3
福岡	14.4	12.4	12.2	10.4	12.9	↑	5.2	4.6	4.7	4.1	4.5
熊本	16.9	11.5	11.1	10.3	9.9		5.0	3.9	3.0	4.3	4.1
東京都特別区	19.1	18.9	17.8	16.0	14.3		7.1	6.9	6.4	6.0	5.0

注1) 備考欄において「↑」は2019年の罹患率が2018年を上回ったもの、「○1」は罹患率下位1位を、「△1」は罹患率上位1位を表す。

注2) 太枠は2019年の罹患率が結核低蔓延の水準である10を下回った都道府県および政令指定都市。

都道府県別の結核罹患率で、結核低まん延の水準である罹患率10を下回った都道府県数は、前年の17から増加して22となっている。最も低い岩手県の結核罹患率は6.8となっている。

表 8. 年末時結核登録者数及び有病率の年次推移

区 分	総数／前年比		活 動 性 全 結 核			
			患者数／前年比		有病率(人口10万対) /前年比	
1994年	181,470	△10,114	70,781	△5,894	56.6	△4.9
1995年	168,581	△12,889	65,167	△5,614	51.9	△4.7
1996年	132,958	△35,623	59,760	△5,407	47.5	△4.4
1997年	121,762	△11,196	55,409	△4,351	43.9	△3.6
1998年	107,058		49,205		38.9	
1999年	104,813	△2,245	48,888	△317	38.6	△0.3
2000年	99,481	△5,332	41,971	△6,917	33.1	△5.5
2001年	91,395	△8,086	36,288	△5,683	28.5	△4.6
2002年	82,974	△8,421	32,396	△3,892	25.4	△3.1
2003年	77,211	△5,763	29,717	△2,679	23.3	△2.1
2004年	72,079	△5,132	26,945	△2,772	21.1	△2.2
2005年	68,508	△3,571	23,969	△2,976	18.8	△2.3
2006年	65,695	△2,813	21,976	△1,993	17.2	△1.6
2007年	63,556	△2,139	20,637	△1,339	16.2	△1.0
2008年	62,244	△1,312	20,021	△616	15.7	△0.5
2009年	59,573	△2,671	18,915	△1,106	14.8	△0.9
2010年	55,573	△4,000	17,927	△988	14.0	△0.8
2011年	55,196	△377	17,264	△663	13.5	△0.5
2012年	52,173	△3,023	14,858	△2,406	11.7	△1.8
2013年	49,814	△2,359	13,957	△901	11.0	△0.7
2014年	47,845	△1,969	13,513	△444	10.6	△0.4
2015年	44,888	△2,957	12,534	△979	9.9	△0.7
2016年	42,299	△2,589	11,717	△817	9.2	△0.7
2017年	39,670	△2,629	11,097	△620	8.8	△0.4
2018年	37,134	△2,536	10,448	△649	8.3	△0.5
2019年	34,523	△2,611	9,695	△753	7.7	△0.6

1998年以降は新分類

2019年末現在の結核登録者数は34,523人と、前年の37,134人より2,611人減少している。そのうち、活動性全結核の患者数は9,695人と、前年より753人減少している。また、2019年末の結核有病率は、前年の8.3から0.6減少し、7.7となっている。

表9. 年次別 前回治療開始年代別再治療者数（割合）

前回治療開始年	2015年登録者	2016年登録者	2017年登録者	2018年登録者	2019年登録者
総数	1,032 (100%)	908 (100%)	839 (100%)	732 (100%)	667 (100%)
1940年代以前	63 (6.1)	61 (6.7)	46 (5.5)	36 (4.9)	27 (4.0)
1950年代	154 (14.9)	123 (13.5)	106 (12.6)	79 (10.8)	80 (12.0)
1960年代	74 (7.2)	50 (5.5)	61 (7.3)	57 (7.8)	42 (6.3)
1970年代	30 (2.9)	30 (3.3)	28 (3.3)	19 (2.6)	24 (3.6)
1980年代	23 (2.2)	29 (3.2)	29 (3.5)	14 (1.9)	21 (3.1)
1990年代	66 (6.4)	48 (5.3)	43 (5.1)	32 (4.4)	35 (5.2)
2000年代	169 (16.4)	137 (15.1)	94 (11.2)	89 (12.2)	67 (10.0)
2010年代以降	453 (43.9)	430 (47.4)	432 (51.5)	406 (55.5)	371 (55.6)
（再掲）2010年代の再治療者数					
2010年	43 (9.5)	28 (6.5)	33 (7.6)	21 (5.2)	13 (3.5)
2011年	37 (8.2)	32 (7.4)	18 (4.2)	18 (4.4)	12 (3.2)
2012年	73 (16.1)	45 (10.5)	25 (5.8)	24 (5.9)	19 (5.1)
2013年	119 (26.3)	76 (17.7)	40 (9.3)	29 (7.1)	20 (5.4)
2014年	141 (31.1)	94 (21.9)	64 (14.8)	33 (8.1)	20 (5.4)
2015年	40 (8.8)	113 (26.3)	103 (23.8)	57 (14.0)	34 (9.2)
2016年	-	42 (10)	113 (26.2)	95 (23.4)	60 (16.2)
2017年	-	-	36 (8)	98 (24.1)	82 (22.1)
2018年	-	-	-	31 (7.6)	83 (22.4)
2019年	-	-	-	-	28 (7.5)

（注）前回治療開始年は、登録情報あるいは本人・家族等への問診による。
 対象は 2015～2019年新登録者で治療歴が再治療の患者。前回治療年が今回の登録年に近い者には、「登録中の再登録」による者が多いと推察される。

2019年新登録結核患者のうちの再治療者は、667人となっている。このうち、前回治療年が2000年以降の者は438人で、さらに2010年以降の者が371人と再治療者のうち55.6%となっている。

表10-1. 発病から初診までの期間が2か月以上の割合
有症状肺結核

	発病～初診までの期間が 2か月以上の割合(%)
2002年	19.3
2003年	18.8
2004年	18.8
2005年	18.2
2006年	19.4
2007年	18.0
2008年	18.2
2009年	17.9
2010年	18.3
2011年	18.6
2012年	18.7
2013年	18.1
2014年	18.8
2015年	20.0
2016年	19.7
2017年	20.8
2018年	20.6
2019年	20.4

(再掲) 30-59歳有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核

	発病～初診までの期間が 2か月以上の割合(%)
2002年	34.2
2003年	32.3
2004年	31.6
2005年	31.4
2006年	33.2
2007年	32.1
2008年	32.3
2009年	30.7
2010年	32.6
2011年	32.9
2012年	33.7
2013年	31.5
2014年	38.0
2015年	37.1
2016年	33.3
2017年	35.0
2018年	34.5
2019年	34.4

2019年の新登録肺結核患者のうち有症状の者の中で、受診が遅れた（症状発現から受診までの期間が2か月以上）患者の割合は、20.4%となり、前年から0.2ポイントの減少となったが、2002年以降では依然として高い割合となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、受診が遅れた患者の割合は34.4%となっている。

表10-2. 初診から診断（登録）までの期間が1か月以上の割合

有症状肺結核

	初診～診断までの期間が 1か月以上の割合(%)
2002年	27.2
2003年	26.0
2004年	25.0
2005年	25.7
2006年	24.3
2007年	21.7
2008年	19.9
2009年	20.4
2010年	22.6
2011年	22.7
2012年	22.0
2013年	22.1
2014年	21.6
2015年	21.5
2016年	22.0
2017年	21.7
2018年	22.0
2019年	21.9

(再掲) 30-59歳有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核

	初診～診断までの期間が 1か月以上の割合(%)
2002年	15.1
2003年	14.6
2004年	14.1
2005年	14.6
2006年	13.9
2007年	13.2
2008年	10.6
2009年	10.9
2010年	13.6
2011年	14.8
2012年	15.0
2013年	13.9
2014年	13.7
2015年	13.6
2016年	16.1
2017年	14.7
2018年	15.7
2019年	15.2

2002年～2006年までは初診から登録までの期間、2007年以降は初診から診断までの期間

診断が遅れた（受診から結核の診断までの期間が1か月以上）患者の割合は、21.9%となっている。

表10-3. 発病から診断（登録）までの期間が3か月以上の割合

有症状肺結核

	発病～診断までの期間が 3か月以上の割合(%)
2002年	21.5
2003年	21.0
2004年	20.3
2005年	19.7
2006年	20.7
2007年	18.5
2008年	18.1
2009年	18.2
2010年	19.6
2011年	19.4
2012年	19.6
2013年	18.7
2014年	19.0
2015年	20.4
2016年	19.6
2017年	21.2
2018年	20.7
2019年	21.7

(再掲) 30-59歳有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核

	発病～診断までの期間が 3か月以上の割合(%)
2002年	30.3
2003年	29.3
2004年	28.2
2005年	28.7
2006年	29.5
2007年	26.9
2008年	27.0
2009年	26.9
2010年	28.4
2011年	29.8
2012年	30.5
2013年	29.0
2014年	32.9
2015年	35.5
2016年	32.6
2017年	33.6
2018年	30.6
2019年	33.3

2002年～2006年までは発病から登録までの期間、2007年以降は発病から診断までの期間

発見が遅れた（症状発現から結核の診断までの期間が3か月以上）患者の割合は、21.7%となっている。

表11. 年次別 新登録肺結核培養陽性結核患者の薬剤感受性検査結果

() 内は構成比

区 分	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
新登録肺結核患者数	14,123	13,608	13,011	12,033	11,094
培養陽性患者数	10,035 (100.0)	9,878 (100.0)	9,580 (100.0)	9,016 (100.0)	8,110 (100.0)
INH, RFP両剤耐性	48 (0.5)	49 (0.5)	52 (0.5)	55 (0.6)	44 (0.5)
(再掲) INH, RFP両剤耐性のうち外国出生患者	16	15	24	29	21
上記以外でINH耐性含む	324 (3.2)	320 (3.2)	331 (3.5)	322 (3.6)	315 (3.9)
上記以外でRFP耐性含む	29 (0.3)	25 (0.3)	28 (0.3)	32 (0.4)	21 (0.3)
その他耐性	366 (3.6)	347 (3.5)	442 (4.6)	372 (4.1)	339 (4.2)
HRSEすべてに感受性	6,806 (67.8)	6,939 (70.2)	6,981 (72.9)	6,734 (74.7)	5,899 (72.7)
HR感受性その他不明	57 (0.6)	52 (0.5)	57 (0.6)	55 (0.6)	40 (0.5)
未実施・他・不明	2,405 (24.0)	2,146 (21.7)	1,689 (17.6)	1,446 (16.0)	1,452 (17.9)
(再掲)薬剤感受性検査結果判明者	7,630 (76.0)	7,732 (78.3)	7,891 (82.4)	7,570 (84.0)	6,658 (82.1)
(再掲) 薬剤感受性検査結果判明者					
培養陽性患者数	7,630 (100.0)	7,732 (100.0)	7,891 (100.0)	7,570 (100.0)	6,658 (100.0)
INH, RFP両剤耐性	48 (0.6)	49 (0.6)	52 (0.7)	55 (0.7)	44 (0.7)
上記以外でINH耐性含む	324 (4.2)	320 (4.1)	331 (4.2)	322 (4.3)	315 (4.7)
上記以外でRFP耐性含む	29 (0.4)	25 (0.3)	28 (0.4)	32 (0.4)	21 (0.3)
その他耐性	366 (4.8)	347 (4.5)	442 (5.6)	372 (4.9)	339 (5.1)
HRSEすべてに感受性	6,806 (89.2)	6,939 (89.7)	6,981 (88.5)	6,734 (89.0)	5,899 (88.6)
HR感受性その他不明	57 (0.7)	52 (0.7)	57 (0.7)	55 (0.7)	40 (0.6)

INH, RFP両剤感受性検査結果判明者を薬剤感受性検査結果判明とした。

2019年の新登録肺結核培養陽性結核患者8,110人のうち、薬剤感受性検査結果が判明した者(INH、RFP両剤感受性検査結果判明者)は6,658人で、割合は82.1%となり、前年の84.0%から1.9ポイント減少となっている。このうち、多剤耐性肺結核患者数(INH, RFP両剤耐性の者)は44人で、前年より11人減少となっている。新登録肺結核培養陽性結核患者の多剤耐性結核割合は0.5%で前年の0.6%から0.1ポイント減少となっている。また、薬剤感受性検査結果が判明した者のうち、主要4剤(HRSE)全ての薬剤に対し感受性のある患者の割合は88.6%となっている。

表12. 年次別 新登録結核患者の糖尿病合併あるいはH I V感染

(() 内は構成比)

区 分	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
新登録結核患者数	18,280 (100.0)	17,625 (100.0)	16,789 (100.0)	15,590 (100.0)	14,460 (100.0)
糖尿病ありの者	2,686 (14.7)	2,509 (14.2)	2,368 (14.1)	2,210 (14.2)	2,105 (14.6)
なしの者	13,472 (73.7)	13,277 (75.3)	12,576 (74.9)	11,630 (74.6)	10,680 (73.9)
不明の者	2,122 (11.6)	1,839 (10.4)	1,845 (11.0)	1,750 (11.2)	1,675 (11.6)
H I V検査実施陽性者	40 (0.2)	44 (0.2)	34 (0.2)	44 (0.3)	29 (0.2)
H I V検査実施陰性者	1,474 (8.1)	1,556 (8.8)	1,454 (8.7)	1,251 (8.0)	975 (6.7)
H I V検査未実施者	4,697 (25.7)	4,933 (28.0)	4,753 (28.3)	4,757 (30.5)	4,942 (34.2)
不明の者	12,069 (66.0)	11,092 (62.9)	10,548 (62.8)	9,538 (61.2)	8,514 (58.9)

2019年の新登録結核患者のうち、糖尿病合併患者は2,105人で、新登録結核患者の14.6%となっている。また、HIV検査を実施した患者は1,004人で、新登録結核患者の6.9%にあたり、このうちHIV陽性は29人で、新登録結核患者の0.2%となっている。

表13-1. 年次別 医療従事者の新登録結核患者数(看護師・保健師)

(() 内は新登録に占める割合)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
総 数	219 (1.2)	191 (1.1)	216 (1.3)	168 (1.1)	152 (1.1)
15~19歳	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
20~29歳	32 (2.8)	24 (1.9)	46 (3.7)	26 (2.0)	20 (1.7)
30~39歳	63 (5.7)	53 (5.3)	59 (6.0)	38 (4.3)	27 (3.5)
40~49歳	61 (4.5)	47 (3.8)	54 (4.7)	58 (5.6)	45 (4.6)
50~59歳	47 (3.5)	44 (3.4)	43 (3.4)	29 (2.5)	36 (3.4)
60~69歳	15 (0.6)	18 (0.8)	14 (0.7)	16 (0.9)	20 (1.4)
70~79歳	1 (0.0)	4 (0.1)	0 (0.0)	1 (0.0)	4 (0.1)
80歳以上	0 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

2019年の新登録結核患者のうち、看護師・保健師からの登録患者は152人で、前年の168人から16人の減少となっている。新登録結核患者のうちの割合は1.1%と前年と同割合となっている。年齢階級別では、40~49歳が最も多いが前年の58人から13人減少して45人、同年齢階級新登録結核患者の4.6%となっている。

表13-2. 年次別 医療従事者の新登録結核患者数（医師）

（ ）内は新登録に占める割合

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
総数	61 (0.3)	40 (0.2)	38 (0.2)	34 (0.2)	39 (0.3)
20～29歳	9 (0.8)	3 (0.2)	4 (0.3)	3 (0.2)	1 (0.1)
30～39歳	12 (1.1)	3 (0.3)	6 (0.6)	3 (0.3)	5 (0.7)
40～49歳	9 (0.7)	8 (0.7)	6 (0.5)	5 (0.5)	5 (0.5)
50～59歳	12 (0.9)	5 (0.4)	7 (0.6)	10 (0.9)	6 (0.6)
60～69歳	7 (0.3)	8 (0.4)	4 (0.2)	4 (0.2)	8 (0.5)
70～79歳	5 (0.1)	4 (0.1)	6 (0.2)	2 (0.1)	6 (0.2)
80歳以上	7 (0.1)	9 (0.1)	5 (0.1)	7 (0.1)	8 (0.1)

2019年の新登録結核患者のうち、医師の登録患者は39人で、前年より5人増加となっている。新登録結核患者中の割合は0.3%となっている。30歳から69歳の年齢階級別新登録結核患者中割合は0.5～0.7%となっている

表13-3. 年次別 医療従事者の新登録結核患者数（その他）

（ ）内は新登録に占める割合

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
総数	264 (1.4)	231 (1.3)	280 (1.7)	225 (1.4)	221 (1.5)
15～19歳	1 (0.6)	1 (0.5)	3 (2.0)	3 (1.9)	1 (0.7)
20～29歳	48 (4.3)	36 (2.9)	39 (3.2)	30 (2.4)	33 (2.8)
30～39歳	62 (5.6)	52 (5.2)	64 (6.5)	57 (6.4)	37 (4.8)
40～49歳	61 (4.5)	63 (5.1)	66 (5.7)	38 (3.7)	62 (6.3)
50～59歳	53 (3.9)	44 (3.4)	61 (4.8)	52 (4.5)	50 (4.7)
60～69歳	29 (1.2)	28 (1.3)	34 (1.7)	38 (2.2)	30 (2.0)
70～79歳	9 (0.2)	7 (0.2)	11 (0.3)	7 (0.2)	7 (0.2)
80歳以上	1 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.0)

（注）その他：理学療法士、作業療法士、検査技師、放射線技師等および介護職等、看護師・保健師・医師以外で医療機関に勤務する結核感染リスクが高いと考えられる者。

2019年の新登録結核患者のうち、理学療法士、作業療法士、検査技師、放射線技師など、看護師・保健師・医師以外の者で医療機関に勤務する者の登録患者数は221人で昨年の225人から4人の減少となり、新登録結核患者のうちの割合は1.5%となっている。30歳から69歳での年齢階級別では、40～49歳における割合が最も大きく、同年齢階級新登録結核患者の6.3%となっている。

表14-1. 年次別 無職臨時日雇等の新登録結核患者数

() 内は新登録に占める割合

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
合 計	1,172 (23.7)	1,105 (23.2)	878 (18.9)	869 (20.0)	762 (19.2)
20～24歳	72 (13.7)	66 (10.5)	44 (7.2)	52 (8.0)	50 (8.1)
25～29歳	86 (14.3)	96 (15.9)	89 (14.3)	73 (11.8)	60 (11.0)
30～34歳	95 (18.4)	98 (19.0)	90 (17.8)	79 (17.2)	59 (16.0)
35～39歳	107 (18.3)	97 (19.9)	86 (17.8)	89 (20.9)	85 (21.4)
40～44歳	161 (23.2)	137 (24.0)	105 (20.0)	80 (18.5)	78 (17.8)
45～49歳	179 (26.7)	187 (28.5)	141 (22.2)	142 (23.6)	129 (23.6)
50～54歳	202 (31.3)	175 (29.1)	148 (24.2)	153 (27.5)	134 (24.5)
55～59歳	270 (38.3)	249 (35.9)	175 (26.7)	201 (33.9)	167 (32.9)

(注) 無職臨時日雇等：接客業、医療従事者、他の常用勤労者・自営業等、家事従事者、学生、その他不明を除く。合計は20歳～59歳の計。

表14-2. 年次別 無職臨時日雇等の新登録結核患者数(男性、再掲)

() 内は新登録に占める割合

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
合 計	699 (23.5)	613 (21.3)	507 (18.3)	485 (18.6)	422 (17.7)
20～24歳	38 (13.0)	44 (11.5)	29 (8.5)	23 (6.2)	26 (6.8)
25～29歳	39 (12.1)	37 (11.5)	44 (13.2)	35 (10.0)	34 (11.2)
30～34歳	33 (11.7)	41 (15.2)	35 (13.6)	31 (13.1)	24 (11.9)
35～39歳	56 (17.3)	43 (15.7)	31 (12.1)	39 (17.0)	36 (16.8)
40～44歳	89 (22.2)	69 (20.8)	53 (17.4)	43 (15.9)	35 (13.7)
45～49歳	116 (26.4)	110 (27.1)	91 (22.5)	83 (22.6)	74 (23.3)
50～54歳	126 (30.1)	109 (26.7)	111 (25.2)	94 (25.1)	86 (23.4)
55～59歳	202 (40.8)	160 (33.5)	113 (25.9)	137 (34.1)	107 (31.6)

(注) 無職臨時日雇等：接客業、医療従事者、他の常用勤労者・自営業等、家事従事者、学生、その他不明を除く。合計は20歳～59歳の計。

2019年の新登録結核患者のうち、登録時の年齢が20～59歳であり、登録時の職業が無職臨時日雇等であった者は762人で、前年の869人から107人減少している。新登録結核患者のうちの割合も19.2%で前年の20.0%から0.8ポイントの減少となっている。年齢階級別での患者数は、高齢ほど多くなっており、55～59歳では、同年齢階級の32.9%とおよそ3人に1人となっている。

また、男性の患者に占める無職臨時日雇等の者の割合は55～59歳が最も割合が大きく31.6%となっているが、前年から2.5ポイント減少となっている。

表15-1. 前年(2018年)新登録結核患者の治療成績

	総数	治療成功 (%)	死亡 (%)	失敗 (%)	脱落・中断 (%)	転出 (%)	治療中 (%)	不明 (%)
総数	15,527	10,192 (65.6)	3,472 (22.4)	9 (0.1)	255 (1.6)	380 (2.4)	1171 (7.5)	48 (0.3)
0～9歳	31	27 (87.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.2)	3 (9.7)	0 (0.0)
10～19歳	179	147 (82.1)	1 (0.6)	0 (0.0)	1 (0.6)	10 (5.6)	19 (10.6)	1 (0.6)
20～29歳	1,275	957 (75.1)	1 (0.1)	1 (0.1)	19 (1.5)	153 (12.0)	135 (10.6)	9 (0.7)
30～39歳	877	715 (81.5)	4 (0.5)	0 (0.0)	11 (1.3)	63 (7.2)	80 (9.1)	4 (0.5)
40～49歳	1,029	873 (84.8)	24 (2.3)	0 (0.0)	16 (1.6)	29 (2.8)	84 (8.2)	3 (0.3)
50～59歳	1,148	935 (81.4)	56 (4.9)	1 (0.1)	26 (2.3)	20 (1.7)	103 (9.0)	7 (0.6)
60～69歳	1,695	1,287 (75.9)	201 (11.9)	3 (0.2)	37 (2.2)	17 (1.0)	145 (8.6)	5 (0.3)
70～79歳	2,975	2,062 (69.3)	600 (20.2)	2 (0.1)	50 (1.7)	33 (1.1)	219 (7.4)	9 (0.3)
80～89歳	4,516	2,497 (55.3)	1,613 (35.7)	1 (0.0)	70 (1.6)	41 (0.9)	285 (6.3)	9 (0.2)
90歳以上	1,802	692 (38.4)	972 (53.9)	1 (0.1)	25 (1.4)	13 (0.7)	98 (5.4)	1 (0.1)

2018年の新登録結核患者の2019年末での治療成績は、治療成功が65.6%、死亡22.4%、失敗0.1%、脱落・中断1.6%、転出2.4%、治療中7.5%、不明0.3%となっている。60歳以上から年齢階級の上昇にともなって死亡割合が増加し、60～69歳で11.9%、70～79歳で20.2%、80～89歳で35.7%、90歳以上で53.9%となっている。死亡の影響が少ない59歳以下の年齢階級の治療成功割合は75.1%～87.1%となっている。脱落・中断は50～59歳で最も高く2.3%となっている。

表15-2. (再掲)前年(2018年)新登録再治療結核患者の治療成績

	総数	治療成功 (%)	死亡 (%)	失敗 (%)	脱落・中断 (%)	転出 (%)	治療中 (%)	不明 (%)
総数	735	475 (64.6)	139 (18.9)	1 (0.1)	19 (2.6)	18 (2.4)	75 (10.2)	8 (1.1)
0～9歳	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
10～19歳	9	6 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (11.1)	2 (22.2)	0 (0.0)
20～29歳	45	30 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (13.3)	7 (15.6)	2 (4.4)
30～39歳	39	29 (74.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.6)	2 (5.1)	6 (15.4)	1 (2.6)
40～49歳	57	50 (87.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.8)	2 (3.5)	4 (7.0)	0 (0.0)
50～59歳	72	55 (76.4)	2 (2.8)	0 (0.0)	4 (5.6)	2 (2.8)	9 (12.5)	0 (0.0)
60～69歳	110	74 (67.3)	13 (11.8)	0 (0.0)	2 (1.8)	1 (0.9)	19 (17.3)	1 (0.9)
70～79歳	135	96 (71.1)	25 (18.5)	0 (0.0)	2 (1.5)	3 (2.2)	8 (5.9)	1 (0.7)
80～89歳	208	112 (53.8)	68 (32.7)	1 (0.5)	8 (3.8)	1 (0.5)	15 (7.2)	3 (1.4)
90歳以上	60	23 (38.3)	31 (51.7)	0 (0.0)	1 (1.7)	0 (0.0)	5 (8.3)	0 (0.0)

2018年の新登録再治療結核患者の2019年末での治療成績は、治療成功が64.6%、死亡18.9%、失敗0.1%、脱落・中断2.6%、転出2.4%、治療中10.2%、不明1.1%となっており、死亡の割合は全体よりも低くなっているものの脱落・中断が多くなっている。

表15-3. 前年(2018年)新登録潜在性結核感染症 (LTBI) 治療開始者の治療成績

	総数	治療完了 (%)	死亡 (%)	脱落・中断 (%)	転出 (%)	治療中 (%)	不明 (%)
総数	7,286	6,112 (83.9)	162 (2.2)	529 (7.3)	131 (1.8)	328 (4.5)	24 (0.3)
0～9歳	521	460 (88.3)	0 (0.0)	20 (3.8)	8 (1.5)	32 (6.1)	1 (0.2)
10～19歳	230	200 (87.0)	0 (0.0)	5 (2.2)	5 (2.2)	20 (8.7)	0 (0.0)
20～29歳	930	766 (82.4)	2 (0.2)	59 (6.3)	54 (5.8)	47 (5.1)	2 (0.2)
30～39歳	788	679 (86.2)	0 (0.0)	46 (5.8)	29 (3.7)	32 (4.1)	2 (0.3)
40～49歳	935	796 (85.1)	1 (0.1)	77 (8.2)	16 (1.7)	41 (4.4)	4 (0.4)
50～59歳	996	861 (86.4)	6 (0.6)	80 (8.0)	7 (0.7)	40 (4.0)	2 (0.2)
60～69歳	1,138	950 (83.5)	27 (2.4)	106 (9.3)	4 (0.4)	45 (4.0)	6 (0.5)
70～79歳	1,115	913 (81.9)	62 (5.6)	90 (8.1)	5 (0.4)	43 (3.9)	2 (0.2)
80～89歳	551	425 (77.1)	55 (10.0)	40 (7.3)	3 (0.5)	25 (4.5)	3 (0.5)
90歳以上	82	62 (75.6)	9 (11.0)	6 (7.3)	0 (0.0)	3 (3.7)	2 (2.4)

2018年の潜在性結核感染症新登録者のうち治療を開始した者の2019年末での治療完了率は83.9%となっている。脱落・中断は7.3%となっているが、中高年齢階級では高く60～69歳では9.3%となっている。(表15-3)

表15-4. 前々年(2017年)新登録結核患者で多剤耐性の者の治療成績

	総数	治療成功 (%)	死亡 (%)	失敗 (%)	脱落・中断 (%)	転出 (%)	治療中 (%)	不明 (%)
総数	63	33 (52.4)	9 (14.3)	0 (0.0)	1 (1.6)	15 (23.8)	5 (7.9)	0 (0.0)

(注) 表15-1～表15-4: 2019年末までの治療成績

2017年の新登録結核患者で多剤耐性結核患者の2019年末での治療成績は、対象63人のうち治療成功52.4%、死亡14.3%、失敗0.0%、脱落・中断1.6%、転出23.8%、治療中7.9%、不明0.0%となっている。